

# 日本地衣学会

# No.23

# ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次	第2回大会報告(速報)/大会委員長.....	79
	観察会記録.....	81
	第3回青空地衣教室(玉原高原)の報告/木下靖浩・安斉唯夫.....	81
	玉原高原の観察会に参加して/今井正巳.....	82

## 第2回大会報告(速報)

### JSL 2nd Annual Meeting at Kyoto (News Flash)

(宮川 恒:大会委員長)

8月2~3日に京都大学農学部において日本地衣学会第2回大会を開催した。一般会員25名、学生会員9名、非会員1名に海外からの招待講演者を加えた計36名の参加があった。

大会初日の2日午後に総会が開かれた。吉村庸会長の挨拶の後、前年度の活動報告と会計報告があった。さらに、2003年度の活動計画と遂行状況に関する説明がありいずれも承認された。ついで山本庶務幹事から生駒義篤、吉岡一郎の両氏を名誉会員として選出することについての提案がなされた。生駒氏については長年にわ

たる地衣類研究とその出版活動を讃え、また吉岡氏についてはその地衣成分研究における功績を讃え、本学会に名誉会員としてお加わりいただきたいとの提案の趣旨が説明され、大きな拍手で承認された。承認の後、会場にお越しいただいた両氏にそれぞれの地衣ならびに地衣学研究との関わりを話していただいた。お二方ともたいへんお元気で、往年のエピソードなど興味深いお話とともに後進の研究者への貴重なアドバイスをいただき参加者一同大きな感銘を受けた。また会場には生駒氏の著作の展示コーナーが設けられ、実際にその偉業に接す



図1. 生駒義篤氏の講演(撮影:岡本達哉)。



図2. 吉岡一郎氏の講演(撮影:岡本達哉)。

ることができたため感銘がさらに深まった。なおこの著作は同氏のご厚意により日本地衣学会を通じて安価に頒布されることになった。詳しくは学会のホームページを今後参照されたい。

総会に引き続いて「中国雲南省の地衣類 多様性と生物地理」と題するシンポジウムが開催された。まず原田浩氏(千葉県立中央博物館)が「中国雲南省における地衣類の多様性」と題して、雲南の地理の特徴と地衣類の分布について概説した。次に高橋奏恵氏(広島大学大学院理学研究科)が、「中国雲南省のヨロイゴケ属地衣類」について講演した。雲南省には新種 3 種を含む 10 種のヨロイゴケ属地衣類が認められ、その分布型は 3 つのタイプに分けられる。日本のフロラとの高い類似性が見られ、今後さらに東南アジアや中国東部などの東アジアのフロラを研究することにより、ヨロイゴケ属の起源にせまる重要な知見が得られるものと期待できる、との内容であった。3 番目に王立松(Wang Li-song)

氏(中国科学院昆明植物研究所)が「中国雲南省のホネキノリ属(広義)地衣類」と題して講演した。広義のホネキノリ属は、近年多くの属に分けられそのうちの 4 属が雲南省で知られている。演者は豊富な写真を用いてそれらの分布や生育場所を紹介し、特にハリガネキノリ属の種が多く見られることを強調した。講演の後総合討論となり、雲南の特徴的な地理条件がもたらした多様な地衣類の分布は、種分化の歴史を明らかにする上での重要な研究対象であり、今後ますます研究交流を盛んにしていく必要がある、と結ばれた。シンポジウムの後は懇親会となった。幹事を務めてくれた学生さんの活躍で、たいへん和やかに楽しい宴にすることができた。

翌 3 日は口頭発表の形式による研究発表会で合計 14 題の発表があった。前大会同様、分類から地衣類相、さらに地衣の生理、化学など内容は幅広い分野にわたり、それぞれの発表に熱心な質疑応答がなされた。各発表は近く Lichenology 誌にその要旨が掲載される予定であるのでそちらを参照されたい。

最後に来年の再会(東京での開催を予定)を約束して第 2 回大会は幕を閉じた。今回も参加者全員が活発な討論を通じて互いの交流を深めることができたものと信じる。このような成功を収めることができたのも参加者さらには会員の皆様のおかげである。特に高萩氏には大会の準備と実行にあたり大きなご助力をいただいた。この場を借りて心からお礼申し上げる。

#### 日程

8月2日

10時～12時：評議員会

13時～15時：総会

15時30分～17時30分：シンポジウム

17時30分～20時：懇親会

8月3日

10時～12時：研究発表会

13時15分～14時45分：研究発表会

#### シンポジウム

「中国雲南省の地衣類 多様性と生物地理」

(オーガナイザー 原田 浩)

《講演 1》中国雲南省における地衣類の多様性 / 原田浩(千葉県立中央博物館)

《講演 2》中国雲南省のヨロイゴケ属地衣類 / 高橋奏恵(広島大学大学院理学研究科)

《講演 3》Alectorioid Lichens from Yunnan, China (中国雲南省のホネキノリ属(広義)地衣類) / 王立松(中国科学院昆明植物研究所)



図 3 .高橋奏恵氏の講演(撮影:原 光二郎).



図 4 .王立松氏の講演(撮影:原 光二郎).

## 研究発表

- 《発表 1》日本産海岸生アナイボゴケ属の再検討 / 原田浩 (千葉県中央博)
- 《発表 2》島根県において樹木葉上に採集した *Strigula* 属地衣 / 周藤康雄, 大谷修司\* (元島根林技センター, \*島根大教育)
- 《発表 3》田沢湖の地衣類分布 / 山本好和, 阿部ちひろ, 伊東真那実, 原 光二郎, 小峰正史 (秋田県大生物資源科)
- 《発表 4》*Anzia* および *Pannoparmelia* の分子系統 / 藤原文子, 原 光二郎, 吉村 庸\*, J. A. Elix\*\*, 山本好和 (秋田県大院生物資源科学, \*服部植物研, \*\*オーストラリア国立大)
- 《発表 5》ツメゴケ科地衣類の形態形成 / 嵯峨優美子, 小峰正史, 原 光二郎, 山本好和 (秋田県大生物資源科)
- 《発表 6》地衣菌 *Cetraria aculeata* の低 pH 応答 / 黒木瑞恵, 原 光二郎, 藤井洋光, 小峰正史, 山本好和 (秋田県大生物資源科)
- 《発表 7》地衣類の耐凍性に関する遺伝学的研究 / 橋本誠, 小林靖典, 松尾 諒, 中島裕之 (久留米高専)
- 《発表 8》地衣類の耐塩性に関する遺伝学的研究 / 澤田和敬, 大淵麻利衣, 中島裕之 (久留米高専)

- 《発表 9》地衣類の抗細菌活性 / 武田瑞紀, 原 光二郎, 小峰正史, 稲元民夫, 山本好和 (秋田県大生物資源科)
- 《発表 10》地衣類の木材腐朽菌増殖抑制活性 / 堀米希恵, 原 光二郎, 小峰正史, 土居修一\*, 山本好和 (秋田県大生物資源科, \*秋田県大木材高度加工研)
- 《発表 11》日本のイワタケ類地衣とその含有成分について / 吉村 庸 (服部植物研)
- 《発表 12》培養地衣菌 *Amygdalaria panaeola* の産生する蛍光物質の構造 / 木下 薫, 小山清隆, 高橋邦夫, 山本好和\*, 吉村 庸\*\* (明治薬科大, \*秋田県大, \*\*服部植物研)
- 《発表 13》地衣菌代謝物の地衣藻の成長に及ぼす影響 / 竹仲由希子, 棚橋孝雄, 濱田信夫\* (神戸薬科大, \*大阪府環境科学研)
- 《発表 14》地衣 *depsidone* 類の LC/MS/MS 分析 / 宮川 恒, 松田史生, 濱田信夫\* (京大院農, \*大阪府環境科学研)

## 観察会記録 Report of JSL Field Meeting

### 第 3 回青空地衣教室 (玉原高原) の報告

6月1日に予定していた第3回青空地衣教室(箱根駒ヶ岳)は台風のため中止となってしまったが(本誌20号, p. 69), 場所と日を改めて開催することができたので, 報告する。

\* \* \*

開催日: 2003年7月20日(日)  
 開催場所: 群馬県沼田市玉原(たんばら)  
 高原 標高 約1200m  
 内容: ブナ林の地衣類を観察する  
 参加者: 10名  
 講師: 原田 浩(千葉県立中央博物館)  
 日程: 本誌20号 p. 69のとおり

駐車場から玉原湿原に移動し昼食を済ませたあと(図1), 湿原のブナ林で地衣類を観察した。冬季には3mほどの積雪があるためか, 幹の腰より低い部分には大型地衣類がほとんど見られなかったが, ウチキウメノキゴケやオオコゴケボシゴケなどの葉状地衣, クサビラゴケやクロイボゴケなどの痂状地衣を観察できた。形態の違い

を説明するかのようにセンシゴケとフクレセンシゴケが並んで生えている場所もあった。ブナ林を稜線に登ると大形種のヘラガタカブトゴケが見つかった。逆に沢沿いに下りると幹の下のほうにナメラウラムイゴケを見つけた, "裏実苔(うらみ。「恨み」ではない)"の



図1. 玉原湿原にて

名の由来となった、子器が裂片先端の裏側に付いている様子を確認した。

予定通り 3 時頃に終了し、それと同時に雨が降り出した。長い梅雨のつかの間の晴れ間に開催できたのは幸いだった。

北関東では初めての観察会で幹事に土地勘がないために、会場選定をはじめ群馬県立博物館の綿貫さんには大変お世話になった。この場を借りて御礼を申し上げたい。

(木下靖浩・安斉唯夫：地域活性化委員会関東)

### 玉原高原の観察会に参加して

今回の玉原高原の観察会の参加は、毎日仕事を遅くまで頑張っている自分へのご褒美のつもりで参加しました。参加者みなさん宿泊されると思っていたのですが宿泊者が 5 人だけと聞いて、泊を取り消そうかとも思いました。しかし、泊まったことは大正解でした。

まず、いつも自分が見て回っているフィールドとの違いに驚きました。いつもはウメノキゴケが見つかっただけでも喜んでいるようなところですから、今回見るもの全て初めてのものばかり。見慣れていた地衣としては口ウソクゴケくらいでした。それもブナ林としては珍しいとのこと。1 日目は梅雨の谷間で天候に恵まれたものの、

2 日目はあいにくの雨。困ったことに雨具といえど持っているのは傘だけ、他のみなさんは雨具の準備万全の中で恥ずかしかったのですが、それでも何とか過ごせたのはラッキーでした。また、他にもいろいろなおラッキーがありました。2 日目のコースは泊まったペンションの近くのブナ林で、1 日目ではあまり見られなかったエビラゴケ、ナメラカブトゴケが見られたこと。でも成長が悪くどれも小さいものだけでした。もう一つヨコワサルオガセが見られたことです。ちょうど倒木がありそこにあったのです。目の届かない高いところでもっと生えているのですが、倒木のお陰で見ることができました。全体としてブナ林の地衣類としては、今ひとつのようでしたが私としては 2 日間十分満足できました。

私が地衣類にのめり込んだきっかけは、再結晶法を使っても簡単にスライドガラスの上に地衣成分の結晶ができることに驚き、これは中学校の教材に使える、使いたい一念だったのです。どちらかと言うと身近にあるごく普通の地衣類を調べたい気持ちのほうが強かったのです。しかし、この観察会が、「もっといろいろな地衣類を知りたい、調べたい、もっといろいろな場所で地衣類を観察したい。」という気持ちに変え、身近な地衣類だけで終わらせていいのかという思いを強くさせてくれました。

(今井正巳：相模原市立由野台中学校)

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see no. 13, p. 46 of this publication.

*Lichenology* 日本地衣学会ニュースレター  
とも、投稿先は：

原田 浩、〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2  
千葉県立中央博物館、Fax 043-266-2481.  
E-mail: h.hrd3@mc.pref.chiba.jp

(原田浩：編集委員長)

### 複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌13号46ページに。

### Notice about photocopying

日本地衣学会ニュースレター 23号

発行日：2003年8月25日

編集：原田浩・岡本達哉・木下靖浩・棚橋孝雄  
発行者・発行所：日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内